

情報公開内容

課題名：肝細胞癌に対する肝動脈塞栓術：技術的側面と予後についての 後方視的研究

本研究の目的

肝細胞癌（以下、肝癌）の有効な治療法の一つに肝動脈塞栓療法があります。肝癌を栄養する血管をつめる（塞栓する）ことにより肝癌を壊死させる治療です。今回の研究の目的は、この肝動脈塞栓術を受けられた症例の治療結果を全国的に調査し、治療成績を検討することです。特に今回の調査は肝動脈塞栓療法の技術的要素と治療結果を注目して検討します。

本研究の対象

本研究の対象者は既に肝動脈塞栓療法を受けられ、以下の条件を満たした症例です。

- 1) 肝癌の初回治療が肝動脈塞栓療法であった、または肝切除後再発に対する初回治療が肝動脈塞栓療法であった症例。
- 2) IVR学会修練機関で肝動脈塞栓療法を受けられた症例。
- 3) 2003年、2004年に肝動脈塞栓療法を受けられた症例。本研究では、肝動脈塞栓療法後肝癌をどの程度抑えられたか(局所制御)も検討します。2005年にラジオ波治療が保険収載となったため、その前2年間で肝動脈塞栓療法が行われた症例を対象とすることになります。ラジオ波治療

が登場して以来、小型肝癌はラジオ波治療で治療することが多くなったため、2005年以降は小型肝癌に対する肝動脈塞栓療法の治療結果が少ない可能性があるためです。

本研究の意義

肝動脈塞栓療法は日本で開発され、全世界に普及した肝癌の治療です。しかし、全国的な治療成績の調査は未だ乏しいのが現状です。今回のような大規模調査を行うことにより、どのような症例がこの肝動脈塞栓療法に適しているのか検討することが可能となります。また、今回の調査は肝動脈塞栓術の技術面と治療効果にも焦点を当てます。従って今回の研究の結果は、今後肝動脈塞栓術を行う上での道標となる可能性があります。

本研究での評価項目

本研究は既に施行されている肝動脈塞栓療法の治療結果を評価します。カルテを調べて調査することが主な調査方法です。調査項目は、個人識別、既往歴、臨床診断、画像診断、肝動脈塞栓手技、肝内再発、肝外再発です。生存率、再発率、予後因子等を検討します。

本研究への参加と個人情報保護

この研究への参加はどの段階でも撤回できます。

本研究への参加を拒否されても何ら不利益は生じません。

この研究に参加することで特別な謝礼等の資金援助はありません。

学会論文発表は完全に匿名化してなされます（名前、ID、イニシャル、生年月日は記載されません）。

症例の個人情報には匿名化されますので、個人情報が漏洩することはありません。

問い合わせ、苦情等の窓口の連絡先

所属 広島大学病院 放射線診断科

職名 講師

氏名 柿沢秀明

電話番号 082-257-5963 (内線5257)